

2026年10月28日

2026年度日本調剤グループ学術大会を開催 ～「薬を渡す場所」から、地域・多職種と連携し高い専門性を発揮する存在へ～

薬局の新たな価値を提供する日本調剤株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:小城 和紀)は、2026年9月27日(日)、ベルサール渋谷ファースト(東京都渋谷区)において、薬剤師・医療事務・管理栄養士をはじめとした職員の専門性・発信力向上を目指し、「2026年度日本調剤グループ学術大会 全国大会」を開催いたしました。



■日本調剤グループ学術大会について

日本調剤では、日常業務の中で見出した疑問を出発点に、薬局現場での取り組みや成果を全社で共有する場として、2016年より毎年、社内学術大会を開催しています。本大会を通じて、医療人としての専門性や発表スキルを高め、さらなる成長を目指すとともに、職員が学会での演題発表や論文投稿を主体的に行う姿勢を、業界随一といわれる充実した教育・研修制度で後押ししています。日ごろの研鑽の成果を発表し、互いに高め合うことが、患者さまや社会への貢献につながると考えています。

■「薬局の深化～Beyond the Pharmacy～」をテーマに、全40演題を発表

2026年度は現地開催とオンライン配信を併用したハイブリッド形式で実施し、現地会場には約330名が来場しました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた社外からの聴講受け入れを、7年ぶりに再開いたしました。

一般演題においては、地区選考会で選出された19演題の口頭発表と、社内基準で選出された13演題のポスター発表を実施いたしました。



《口頭発表で最優秀賞を受賞した2名。左の社員は「Rowa Easy Load(自動入庫払出システム)導入による待ち時間変化、業務効率化の分析と検討」、右の社員は「がんセンター門前薬局における外来がん患者のせん妄スクリーニングモデルの構築」と題して、それぞれ発表を行いました》

あわせて、薬剤師育成・教育をテーマとする基調講演や、間接部門およびグループ会社の社員による特別講演、ブース展示などを実施いたしました。

基調講演においては、京都大学大学院にて、薬局における健康支援研究のプロジェクトを主導されている岡田浩教授をお招きし、地域の健康を支える社会的インフラとしての薬局像と、そのために薬剤師が持つべき視点、また、実践と研究をどのように結びつけていくかについてご講演いただきました。



また、特別講演においては、ジェネリック医薬品研究や、小児薬物療法、薬局のOTC対応、薬局M&A、がん治療といった幅広いテーマで計5つの講演を実施いたしました。



《特別講演の様子。小児薬物療法認定薬剤師より、日常的に遭遇する疾患における小児患者さま・保護者の方へのアプローチ・服薬支援や、医療的ケア児に対する高度薬学管理・多職種連携について講演を行いました》

■一般演題で優秀な発表を表彰

全演題終了後、一般演題を対象として、審査員による審査を行うとともに「オーディエンス賞」選出のため聴講者全員による投票を実施いたしました。口頭発表では「最優秀賞」および「オーディエンス賞」各2名、ポスター発表では「オーディエンス賞」1名を選出し、表彰を行いました。

本ニュースリリースに関するお問い合わせ先

日本調剤株式会社 広報部

TEL:03-6810-0826 MAIL:pr-info@nichco.co.jp HP:<https://www.nicho.co.jp/>